



かどや通信

第39号

発行日：令和2年7月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子 子

さあ、再始動！ 出会いの楽しさを再発見！

かどやは、新型「コロナウイルス」感
染拡大防止のため、三月二日から約
三ヶ月間臨時休館していたが、六月
一日からコンサートを除く各種の教
室やセミナーを再開した。

《再会で手より口が活発に》

六月一日に開かれた**絵手紙教室**
には六人が参加した。同教室は、準
備された花や果物、魚介類などをそ
れぞれのイメージでハガキに描いて
いくため、会話は控えめで静かな集
団という印象が強い。しかし、久々の
再会のせいかわ、この日はやはり**絵筆**
を運ぶ手より、口の方が活発に動き
「スライにぎやかかなあ」と事務所の
スタッフを驚かせていた。

羊毛フェルトでハンダやネコ等
を作る**めく俱樂部**や、ひな祭りに飾
る吊るし飾りを作っている**手芸倶楽**
部も会話の量が大幅に増えていた。
共通の趣味を持つ人たちと集い、話
すことの楽しさが、はじけてくるか
のようだった。しかし、どのグルー
プも、ひとしきり話した後には、「ソツソツ
と作品作り」に集中していた。

《長期フランクに戸惑い》

茶道教室は、この次はどつする
んでしたっけ「すっかり忘れてしま
たわ」等の戸惑いで始まった。

茶道は、細やかな所作の連続のた
め、継続した練習が上達につながる
が、三ヶ月のフランクは大きかったよ
うだ。一番弟子のゆかりさんでさえ、
時折「あれれ」と、動作が止まるこ
とも。

しかし、千草先生は粘り強く指導
を続け、生徒さんたちも冷や汗かき
かき練習を繰り返して、稽古時間は一
時間も伸びていた。

万葉行き文学旅行も再開！

人気の文学講座「野の花と万葉の
会」は、「水無月(ミナスキ)のつた」
と題して六月二十八日に行われた。
旧暦の六月は、夏で水が枯れてしま
ったことから水無月と呼ばれていた。
そこで案内人のカヨさんは、大地を



焼き尽くすよつな
夏の歌と、
新暦の梅雨
に合わせた

雨にちなんだ歌を
紹介。また、野の花

は、フトイ草、ネジ
バナ(ねつこ草)、ノ
イバラ(茨)つま
ら、紫陽花等を詠
んだものを分かり
やすく解説した。

山村御流の准教
授でもあるまゆみ
さんはテーマに合
わせて、紫陽花と鉄線、野苺を飾って
会場に彩りを添えた。

なお、従来は、テーマにちなんだ
お菓子とお茶を楽しんでもらって
いたが、「コロナ対策の一環で今回から
このサービスは中止となった。

この配置も変更した。これまでは
参加者全員が顔が見渡せる口の字型
だったが、ソーシャル・ディスタンスを
取るため隣との間隔に配慮したスク
ール形式に変更した。

それでも、参加
者の知的好奇心
は高く、久々の時
空を超えた万葉
への旅を楽しん
でいた。



席はソーシャル・ディスタンスを取った配置に変更



講演前、お花の準備に追われるまゆみさん

充実の時を経て、定住へ！

地域おこし協力隊の創ちゃん はじめ

第七十四回「かどや塾」では、鳥羽地域おこし協力隊員で、地元では「はじめちゃん」の愛称で親しまれている佐藤創さんが二年間の任期を終了したことから、「鳥羽に暮らし」と題して、鳥羽での生活や今後の計画などを話してもらった。

《動画が映像部門で特選に！》

東京都あきるの市出身のはじめちゃんは、京都精華大学芸術学部メディア造形学科映像コース卒業後、東京でテレビ制作会社に就職し、アニメーション制作に従事していた。リオオリンピックの映像や人形アニメーション制作に携わっていたが、当時から将来はフリーランスでの活動を考えていたそう。

そんな時、「地域おこし協力隊」の制度を知り、各地の説明会に参加した。地域によって対応も活動内容等も様々で、決め手を欠いていた。説明を聞くとうと鳥羽にもやってきたが、その日のうちに「なかまち会議」に出席することになり、あわてたそう。しかし、なかまち会のメ

ンバ
ーの
まち
づく
り活
動に

対する熱心な姿勢に感動すると同時に、自身のスキルを活かして地域の活性化に協力できると思い、迷わず鳥羽の協力隊に応募した。

着任後は「鳥羽暮らし魅力情報発信担当」として、なかまちを中心に地域イベントのCM動画やポスター、屋号旗の制作などに携わり、これまで培ってきたスキルを存分に活かした活動を積み重ねた。

なかまち以外でも石鏡（いじか）や答志島の紹介動画、移住定住事業のPR動画やチラシ等も制作した。特に、漁村文化が色濃く残る石鏡のPR動画



石鏡を案内するねこ

「うみねこ いじかさんぽ」は、石鏡の一日を猫の目線でユーモラスに紹介したもので、昨年の三重県広報コンクール映像部門で特選に選ばれた快挙を達成した。

《人との距離の近さが新鮮！》

「鳥羽にきたのは、仕事のためだったので、人にはあまり興味がなかったが、地域の人たちとの触れ合いが増えるにつれて、人との距離の近さが新鮮で、楽しくなった」と話す。また、地域によっては、行政と地域の人たちが協力隊の中に求めるものが異なり、戸惑うケースもあるようだ。鳥羽ははつきりとビジョンを示してくれていたため、やりたことができ、鳥羽を選んでよかったという。

協力隊の体験を経て、任期終了後は鳥羽での定住を決意した。かどやからほど近い場所に「映像アニメーションスタジオ イエンスの塔」を設立し、映像やイベントのチラシ作成等を中心に活動する。また、得意な料理の腕をふるい、ランチやパーティー料理の提供も考慮中とのこと。今後の活躍に目が離せない。

はじめちゃん大変身？

はじめちゃんの第一印象は「暗い」だった。

着任して二ヶ月経った頃、何かの拍子に「二つと」ただけで、かどやでは「はじめちゃんが笑うたー」と評判になったほど。

しかし、なかまち会に引き込まれ、春祭りには天狗踊りのメンバーとなり、練習で地元のお兄さんたちにもスカウトされ、実際にホースを持って火消し作業にも参加した。順番とはいえ町内会の班長も引き受けた。

こうしてはじめちゃんは、好むと好まざるとにかかわらず想定外の密な人間関係を経て、笑顔が似合うさわやかな青年に変身してしまっただけ。「人って、こんなにも変わるんが嬉しいのか」と目を見張っているのはひとりではないはず。

大変身のはじめちゃんが鳥羽に定住してよかったと思ってもらえるよう、応援せねば。みなさんも協力よろしくお願ひしますー！

新分野の展示登場！ 点描画と一閑張り(いっかんぱり)

再開後の展示は、六月に点描画、七月には一閑張りの作品展だったが、いずれもかどやでは初めての分野だ。来館者数は新型コロナの影響もあり以前程ではなかったが、来られた方は、作品の素晴らしさに惹きつけられていた。

《円と点で宇宙を描く》

「豊田育子の点描画作品展」で描かれているのは、点描曼荼羅アートと呼ばれるもので、黒い台紙に曼荼羅模様を描き、曼荼羅模様の中に専用のゲルボールペンを使って点で色付けするものだ。曼荼羅模様は、



コンパスと定規で下絵をかき、点で色付けしていくが、テンテンと無数の点を円の中に入れていくことで無心になれるため、瞑想効果もあるそうだ。

豊田さんの作品

は、十センチ四方のものから五十センチを超え、約四十点が展示された。様々な色使用で、宇宙を連想させる世界が広がった。



無心になれると好評の体験講座

六月六日、七日、十三日と十四日には体験教室も実施され、四日間で延べ十九人が参加した。自粛解除直後だったため、体験を希望する人がいるかどうか予想がつかなかったが、回を重ねる毎に参加者が増えた。十三日に参加した人が「楽しかったから」と翌日もリピーターとして参加した。「すぐくええよ」との噂を聞きつけて来てくれた人もいた。

「狭い場所でも紙とペンがあれば、無心になれるので、もっと続けたい」という強いリクエストもあり、九月十三日にはかどやで教室を開くことになった。

《斬新な伝統工芸にうっせい》

七月の展示は「マチノヤヨイ一閑張り作品展」だ。

一閑張りは、竹や木で組んだ骨組みに和紙を貼り重ね、柿渋や漆を塗って仕上げる紙漆細工の伝統工芸品である。元々は、農家などで使われていた籠などを補修・補強するために用いられた技法だ。農民が農閑期の閑な時に作業したことから一閑張りと呼ばれるようになったという説や、明の飛来一閑が伝え広めた技術から命名されたとか、一貫の重さにも耐えるほど丈夫なことが由来とも言われている。

マチノさんは、数年前に陶器市で一閑張りの作品を見つけ、頑丈そうな見た目とは異なる驚く程の軽さに



に衝撃を受け、独学で作品作りを始めた。今では、作品の制作販売はもとより、教室開催やイベントでの出展等も積極的にやっている。



茶色の柿渋は防水や防虫効果のある優れたものだが、見た目が地味なのが課題だった。そこで、

古文書や英字新聞等を貼ったり、赤や青、緑などを使った斬新な作品にもチャレンジしている。かどやでも伝統的なザルやかごに加えて、下駄や椅子、ペンダントなど、マチノさんのセンスが光る独創的な作品約四十点が並び、また、箏の奏者でもあるマチノさんらしく、箏に一閑張りを施したものもあるが、それは伊勢志摩サミットの配偶者のディナー会場にも展示された。

一閑張りは伝統工芸といえども、今では見る機会が少ないが、来場者は「素敵やわ」「軽くてびっくり」等、驚きながらマチノ・ワールドに魅了されていた。



伊勢志摩サミットに展示された箏を紹介するマチノさん(左)

人気のまゆみ塾再開!

毎回満員御礼のまゆみ塾は、内容再検討のため休講していたが、八月から再開する。二密を避けるため定員を六人に限定し、午前と午後の二部制で実施する。しかし、まゆみさん手製のお菓子とお茶で優雅なひと時を過ごしていただいたが、残念ながらコロナ対策の一環として中止することになった。

「形式は変わりますが、コロナ気分を忘れていただけるような楽しい時間になるよう頑張ります」と、まゆみさん。ティータイムはなくなるが、テーブルコーデの指導は、これまで以上に密になるので、乞うご期待だ。

なお、申し込みは、かどや保存会会員を優先した先着順となる。

《手芸好きに、耳寄り情報》

おしゃやかな小物作りにピッタリな和布の端切れを特別販売します。

日時：八月八日(土)～十日(月)

午前十一時～午後三時半

なくなり次第、終了しますので、お早めに!

新駐車場のご案内

かどやの正面玄関前に専用駐車場ができましたので、ご利用ください。かつてはホルモン焼の人気店「富士乃屋」さんの専用でしたが、閉店に伴い、かどやが借りることになりました。一方、土曜・日曜限定で利用いただいていた元勤労百貨店の駐車場は使えなくなりました。また、従来からご利用いただいている線路脇の駐車場は「かどや」と書かれた三台分しか使えませんので、ご注意ください。元法務局の専用駐車場は従来通りご利用いただけます。



理容フジワラの隣です!

◆◆◆ 貸部屋の案内 ◆◆◆

かどやを有効にご活用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。

電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和2年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

昨年度の会員数は311名で、前年度より約50名減少しましたが、令和2年度も7月15日現在で233名と減少傾向が続いています。新型コロナウイルスが社会全体に大きな影を落としている昨今ですが、スタッフ一同皆様の憩いの場所となるよう日々努力を重ねておりますので、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。本年度の会員登録がまだの方は、登録を何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751